

株主の皆様へ

第125期 中間報告書

2020年4月1日 ▶▶▶ 2020年9月30日

**SHOWA**  
**PAXXS**

昭和パックス株式会社

## 生産様式のイノベーションで 重包装袋事業は今後10年競争力を維持 その間に次のイノベーション、事業展開を計画・実行

### 当中間期の業績について

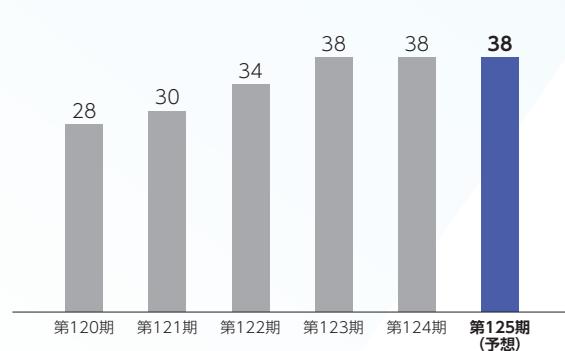
昭和パックスグループは1935年に創業し、一貫してクラフト紙を素材とする包装容器を作ってきました。現在の主要事業は、概ね10～30kgの内容物を包装する容器を製造・販売する重包装袋事業をメインに、農業用や産業用のフィルム製品事業、フレキシブルコンテナバッグを製造するコンテナ事業を展開しております。また、1997年には東南アジアの重包装用クラフト紙袋需要に応えるためタイ昭和パックス(株)を設立し、クラフト紙袋と20フィートドライコンテナ用バルクライナーを製造・

販売しております。

第125期中間期（2020年4月1日～9月30日）の業績につきましては、新型コロナウイルス感染症流行の拡大によって経済活動が停滞した影響が大きく、厳しいものになりました。連結売上高は10,214百万円で、前年同期比682百万円（6.3%）の減収となりました。損益では、営業利益615百万円（同10.6%減）、経常利益692百万円（同8.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益481百万円（同9.7%減）でした。ただ、当初予想していたほどの落ち込みにはならなかったため、通期の業績予想を売上・利益ともに上方修正いたしました。

### 1株当たり年間配当金の推移

(単位：円)



注：2016年10月1日を効力発生日として、普通株式2株を1株とする株式併合を実施しております。第121期以前の年間配当金額は株式併合後に換算した金額を記載しております。

### 生産設備を更新、AI外観および 構造検査を導入

当社グループの売上高の6割強を占める、重包装袋には底堅い需要があります。市場の変化に応えながら、注文を取りこぼすことなく売上を確保していくため、主要製造設備の更新に取り組んでいます。ひとつは、主要商材であるピンチ袋とバックス袋を製造する設備のデジタル制御化です。近年顧客の注文は多品種小ロットになっているため製品切替の頻度が多く、そのたびに機械の調整に時間を労していま

した。製造設備をデジタル制御化することで切替をスムーズに、運転も効率化して、生産性を飛躍的に高めます。第一弾として、2020年11月にバックス袋の新鋭機第1号を亀山工場に導入します。続いて、2021年1月にピンチ袋の新鋭機第1号を東京工場へ導入し、その後、両設備を順次他工場へも展開していく計画です。

新たな試みは、AI（人工知能）を用いた外観および構造検査です。これまでは、センサーによる異常検知と熟練の検査員が目視で検査していました。しかし、センサーは想定した異常しか検知しませんし、経験に頼ったやり方では個人差が出て、見落としも発生します。そこでAIに良品の製造工程を学習させて製品の良否判定基準を策定し、その基準に基づいて特殊なカメラで目視やセンサーでわからない内部構造まで全数検査することで、すべての製品において求められる最終性能を担保します。新型コロナウイルス感染症流行の影響で当初の計画より進捗が遅れていますが、最終的にはすべての工場に導入いたします。

そしてその間に次のイノベーション、事業展開を計画・実行していきます。フィルム製品事業の主力商品である農業用フィルムにつきましても、農産物ごとにユーザーの作業性に配慮し、かつ小ロットでも安定した価格で提供できる製品を引き続き開発してまいります。また、万一災害が発生し一部の工場が被災するようなことがあっても、全国6カ所の工場が連携することで商品の供給責任を果たすとともに、雇用を守ることで地域経済に多少なりとも貢献してまいりたいと考えております。

株主の皆様には何卒ご理解をいただき、これからも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 大西亮



### 株主の皆様へ

近年、収益力の低い事業は閉鎖する企業が少なくありません。しかし、大きな利益が得られなくても雇用の維持は非常に大切と考えています。徹底して安定と事業の継続を追求することが、当社グループのアイデンティティです。重包装袋事業は現在進めている生産様式のイノベーションによって、今後10年は競争力を維持できると確信しております。

(単位：百万円)

売上高 **102億14**百万円 (前年同期比 6.3%減)

▶ 売上高について

当社グループの主要事業は産業用包装資材の製造・販売であり、新型コロナウイルス感染症流行による世界的な生産活動の大幅減速は、当社グループの売上に大きく影響して、減収となりました。しかし、海外子会社の売上が顧客の在庫増し等の要因で落ちなかったこと、また、国内では基本素材や農業分野の需要が下支えたことで、売上高の減少は前年同期比6.3%と、一定の範囲にとどまりました。

営業利益 **6億15**百万円 (前年同期比 10.6%減)

経常利益 **6億92**百万円 (前年同期比 8.8%減)

親会社株主に帰属する  
四半期純利益 **4億81**百万円 (前年同期比 9.7%減)

▶ 利益について

売上の減少にともなって減益となりました。しかし、売上の減少が一定の範囲にとどまり、加えて原価・経費の低減に努めたことで、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益、いずれも減益の幅は10%前後に収まる結果となりました。

▶ 業績予想について

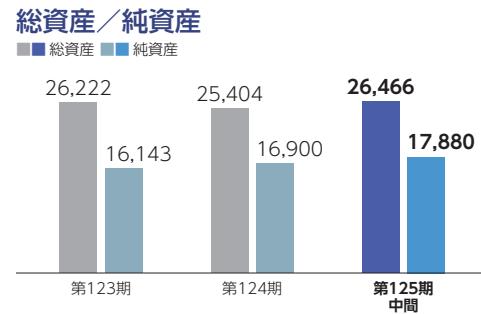
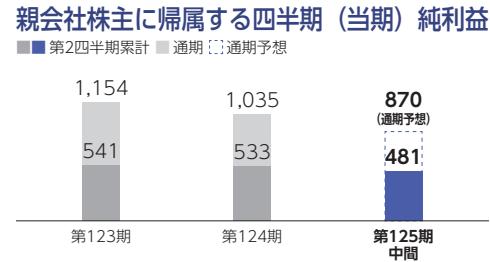
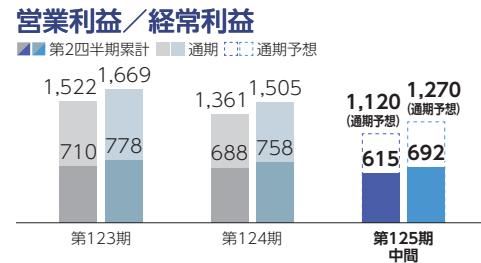
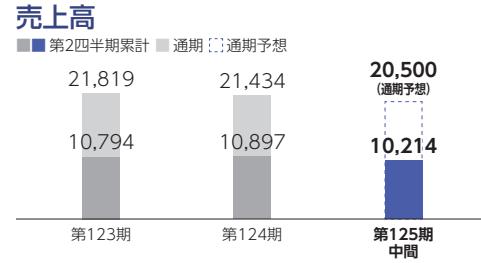
第2四半期までの業績を踏まえ、通期の予想を、期首発表の数値から売上、利益とも上方修正いたしました。修正予想値はグラフに表示の通りです。

総資産 **264億66**百万円 純資産 **178億80**百万円

▶ 資産について

総資産は前連結会計年度末に比べて1,061百万円増加しました。主な増加要因は現金及び預金472百万円および投資有価証券991百万円、主な減少要因は受取手形及び売掛金379百万円および電子記録債権135百万円です。

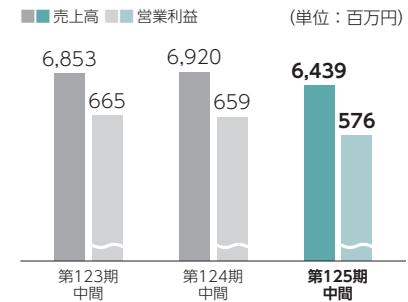
純資産は、前連結会計年度末に比べて979百万円増加しました。主な増加要因は親会社株主に帰属する四半期純利益481百万円およびその他有価証券評価差額金681百万円、主な減少要因は剰余金の配当84百万円および為替換算調整勘定116百万円です。



当社のクラフト紙袋の売上数量は前年同期比△7.2%で、化学薬品、合成樹脂、砂糖・甘味、塩などほぼすべての用途で減少しましたが、製粉用途は増加しました。

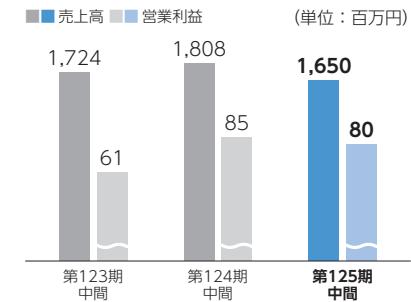
子会社の九州紙工(株)・山陰製袋工業(株)の売上数量も減少しましたが、タイ昭和パックス(株)の売上数量は、新型コロナウイルス感染症の影響で生産活動に支障が出ることを危惧した顧客が在庫積み増しに動いたこともあって、微増となりました。

原紙価格は、大きな変動はありませんでしたが弱含みで推移しました。

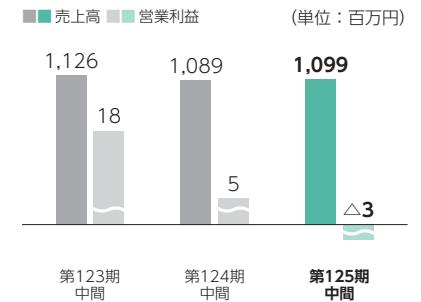


当社のフィルム製品の売上数量は、産業用、農業用ともに減少し、合計で前年同期比△8.1%でした。サクランボ用農業フィルムを除いたすべての品目で減少しました。

主原料であるポリエチレン樹脂の価格は、ナフサ価格の変動を受けて値下がりしましたが、その後値上げの動きが出てきています。



当社のワンウェイ・フレコン「エルコン」の売上数量は、前年度の失注分を一部取り戻し、前年同期比で11.7%の増加となりました。大型ドライコンテナ用インナーバッグ「バルコン」、液体輸送用1,000ℓポリエチレンバック「エスキューブ」は前年同期から減少しましたが、液体輸送用コンテナライナー「エスタンク」は増加しました。



## キリヨケバーナル

キリヨケバーナルは、施設園芸の被覆資材に必要とされる性能を備えた、三層構造のポリオレフィン製農業用ハウスフィルムです。

農業用のハウスは、作物にとって理想的な生育環境を作り出すために様々な機能が必要とされています。

### ◆製品の特徴

- ① **高い防霧効果を発揮します**  
キリ、モヤの発生を抑制し、農作物の病気の発生を抑えます。
- ② **光をよく透します**  
ハウス内部は屋外との気温差によって曇りが生じますが、フィルムの内面に曇り止めの機能をもたせてあるため、光を散乱させずによく透します。また、外面はべた付かずチリや埃などの汚れが付きにくいので、綺麗な状態を保ちます。
- ③ **丈夫で長持ちします**  
多層構造の特性を活かして、長期展張に耐える頑丈さと、雨風による衝撃等を受け流す柔軟性を実現しています。
- ④ **優れた保温性を発揮します**  
フィルムには保温剤が練り込まれており、日中に温められた地面からの放射熱を逃がさず閉じ込めることで夜間もハウス内の温度を暖かく保ち、作物にとって理想的な環境を維持し生育を助けることができます。
- ⑤ **紫外線を適度に透します**  
主に紫に色づく作物の鮮やかさや、ミツバチなどを利用した受粉には、適度な紫外線がハウス内に入ってくることが必要とされています。当社のフィルムはそのような作物類にも適した紫外線の透過性能を保持しており、安心してお使いいただけます。



他にも、現行のスタンダードタイプであるキリヨケバーナルに加えて、特定の作物について成長促進や、品質向上の報告例、病気抑制の効果がとされる紫外線をカットする成分を練り込んだタイプや、フィルム表面をすりガラス状に成型し、太陽光を散乱させてハウス内に受け入れる梨地タイプ、ハウス内外の気温・湿度差を適度に調整するための通気タイプなど作物の性質に合わせたラインナップも多数ご用意しています。

農業用ハウスフィルムが市場に現れた当初は、ポリ塩化ビニル製のフィルム（農ビ）が主流であり、一般にビニールハウスなどとも呼ばれておりました。

しかし、農ビは比重が大きく重いので展張作業の負担になることや、チリや埃等による汚れが付きやすいなど、いくつかの理由から、当社品のようなポリオレフィン製のハウスフィルムが開発され、次第に置き換えられてきたという歴史があります。

こうしたポリオレフィン製の農業用ハウスフィルムは、「農PO」と呼ばれ、皆様の日々の食卓に並んでいる野菜や果物の生育・品質向上の一助となっています。

## ピンチ袋の出荷数が4年ぶりに8,300千袋を超える

新型コロナウイルスによる景気減速の影響もあり、他の型体の出荷が伸び悩む中、当社主力製品であるピンチ袋の4～9月の出荷数が8,325千袋となり、4年ぶりに8,300千袋を超えました。主として塩化ビニール関係の輸出増加により紙袋の需要が増加したことが理由です。

## 「阿波物語」の上市

徳島県でのにんじん栽培用に開発した 三層農業用ポリオレフィンフィルムです。

昨年までテストを繰り返し、良好な結果が得られたため上市しました。引っ張り、引き裂き、衝撃のいずれの強度にも優れ、風雨が強くても安心して使用できます。特殊成形技術により優れた開口性があり、軽量で作業性に優れています。また、長期間良好な透明性を持続できます。



## BAX簡易ケーサーの特許登録

特許登録 2020年9月29日 特許 第6770341号

「紙袋開口部の封緘装置」

BAX袋の簡易型包装機械としてBAX簡易ケーサーの特許が登録されました。袋への詰め込みは手作業、口封が自動で行われる装置です。全自動機と比較して安価で省スペースのため、特にBAX袋の新規導入を考えているお客様に最適です。下期よりBAX袋の最新鋭生産設備の稼働が始まるため、当該機械がBAX袋拡販の一助となることが期待されます。



## 会社概要 (2020年9月30日現在)

### ■ 設立

1935年12月20日

### ■ 資本金

6億4,050万円

### ■ 主要な事業内容

クラフト紙袋、樹脂袋、合成樹脂製品の製造販売および各種包装容器、包装材料、包装関係機械の製造販売

### ■ 主要な事業所

本社 〒162-0845

東京都新宿区市谷本村町2番12号  
電話 03(3269)5111

支店 大阪、西日本(山口)、中部(名古屋)、東北(仙台)

工場 東京(埼玉)、防府(山口)、富山、亀山(三重)、  
盛岡(岩手)、掛川(静岡)

子会社 九州紙工(鹿児島)、ネスコ(東京)、  
山陰製袋工業(島根)、山陰パック(島根)、  
昭友商事(東京)、タイ昭和パックス(タイ王国)

## 当社の株式の状況 (2020年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 13,450,000株
- 発行済株式の総数 4,450,000株
- 株主数 989名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社サンエー化研	846	19.1
新生紙パルプ商事株式会社	837	18.9
株式会社三菱UFJ銀行	135	3.0
特種東海製紙株式会社	130	2.9
株式会社みずほ銀行	80	1.8
OYASKI JOSEPH THOMAS	75	1.7
農林中央金庫	75	1.7
株式会社鹿児島銀行	70	1.6
昭和パックス社員持株会	66	1.5
岡本圭介	50	1.1
損害保険ジャパン株式会社	50	1.1
王子ホールディングス株式会社	50	1.1
丸紅株式会社	50	1.1
みずほ信託銀行株式会社	50	1.1
明治安田生命保険相互会社	50	1.1
中越パルプ工業株式会社	50	1.1

(注)持株比率は自己株式(9,961株)を控除して計算しております。

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
期末配当金支払 株主確定日	3月31日
中間配当金支払 株主確定日	9月30日
基準日	定時株主総会については、3月31日。その他 定款に定めがある場合のほか、必要があるときは あらかじめ公告する一定の日。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
お取扱窓口	お取引の証券会社等。特別口座管理の場合は、 特別口座管理機関のお取扱店。
特別口座管理機関 お取扱店	みずほ信託銀行 フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00～17:00)
未払配当金の お支払	みずほ信託銀行 本店および全国各支店 みずほ銀行 本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります。)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載。 ただし、事故その他やむを得ない事由により 電子公告によることができない場合は、日本 経済新聞に掲載。

## 役員 (取締役および監査役) (2020年9月30日現在)

代表取締役社長	大西 亮	
専務取締役	飯崎 充	管理本部長
取締役	森 文男	生産本部長
取締役	野崎 和宏	営業本部長
取締役	小野寺香一	フィルム事業企画部長
取締役	渡 淳二	
常勤監査役	望月健太郎	
監査役	宮本貞彦	新生紙パルプ商事(株) 常勤監査役
監査役	櫻田武志	(株)サンエー化研 常務取締役

※渡 淳二氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

※宮本貞彦氏および櫻田武志氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

